

a 学校教育目標	郷土を愛し、 自らの役割を見つけ、 全力で伸びようとする児童の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)「知・徳・体」の基礎基本を身につけ、郷土の発展を願う児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)・児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる学校 ・自己を愛し、健康でたくましく活動する児童を育成する学校 ・郷土のよさと課題を知り、その発展のために、地域を支え得る人材を育てる学校
----------	---	----------------------	---

評価計画				自己評価					改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	7月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					達成値	達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の向上	児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる学校	主体的に学ぶ力の育成	○「課題発見・解決学習」の手法を積極的に取り入れ、学ぶ意欲・学び方を育む具体的支援を行う。 ・学習リーダーの進行による学習の仕方を習得(定着)した児童の割合 ・授業で学んだことを自主学習につなげる児童の割合	児童の80%	65%	80%	100%	A	①学習リーダー進行を継続実施 ・校内で、各教科に応じた学習の進行の仕方を再確認しつつ、指導を継続 ⇒算数科、国語科の「学習の進め方」、「学び方」について、児童の理解と定着が◎ ②自主学習の指導を実施 ・自主学習の「意義」や「学習の仕方」について具体的に指導 ⇒改善した学年と改善に至っていない学年▲ (低学年ではゆとりがある。高学年はゆとりがない。)	①成果を次年度へ ・今年度中に、鷺浦小の学習スタイル(学び方)について、どの教職員にもわかる形に整理する。 ②自主学習の指導改善 ・授業の学びを自主学習につなげられている児童の学習方法や具体的な様子を広げる。 ・「自主学習週間」を年度始めに設け、重点的に取り組む。 ③よい取組の拡散 ・成果のあった取組を全学年に広げる。 ④改善計画を作成⇒改善へ ・学校共通課題、学年・個人の課題を分析し、年度末までの取組・次年度の取組をきっちり行う。 ・国語科「読むこと」領域の授業改善に取り組む。	2			・適正に評価されている。 ・子どもたちは、自分の意見をはっきりと言っている。 ・少人数の取組の難しさとプラス面をうまく調和して、素晴らしい結果が出ている。
	基礎学力の定着	①国語科を通して複式・少人数学習の授業改善を進める。 ②学習状況を的確に分析し、課題を克服するための具体策を立て、実行・評価を行う。	①重点課題への取組実施状況(中間) ②標準学力調査における国語科の個別期待値の達成率(最終)	①全学年実施 ②達成児童80%	100%	66.7%	83.4%	B	③漢字定着の取組 ・漢字練習のさせ方や小テストの実施の工夫 ⇒「漢字」や「言語」の定着度に改善◎ ④学校・学年・個の課題への取組(授業改善) ⇒目標値未達成▲ (共通課題・「読む力」→力をつける一層の授業改善)		2			
豊かな心と健やかな体の育成	自己を愛し、健康でたくましく活動する児童を育成する学校	自己肯定感の向上	○頑張りや個々のよさを把握し、積極的な肯定的な評価を継続する。 ・自分のよいところを1つ以上言える児童の割合 ・友達のよいところを指摘できる児童の割合	達成児童100%	100%	100%	100%	A	①達成感・満足度を上げる取組 ・各行事等で、「目標の確認」「計画的な練習」「本番後に達成度を確認(称賛)」する取組を継続 ・日々、全教職員でよさを交流⇒積極的に伝達◎ ・地域の声⇒児童・保護者に積極的に発信◎ ②よさを認め合う風土の醸成 ・帰りの会等で学年に応じた「ふりかえり活動」 ・互いのがんばりを認め合うことの継続 ⇒目標(2つの評価項目)を全員達成(100%)◎	①・②取組の継続・充実 ・自己肯定感を高めるために、教職員から児童へ積極的な声かけや賞賛を行う。 ・「全校よさみつけ活動」を学期毎に実施する。(児童会による自治的な活動として) ③大休憩の「体力づくりタイム」の活用 ・大休憩の10分間の体力づくりタイムを確実に実施する。 ・個別の重点課題を克服する時間とする。 ・個人の課題と取組状況、成果について見える化(掲示物等で明示)を図る。 ④保健朝会と給食時間での指導の継続 ・給食週間での指導(よくかむこと、バランスよく食べることを継続し、より意識化させる。 ・計画的に食育教育を進める。	2			・適正に評価されている。 ・みんな元気で、体力は十分ついてきている。 ・体力は、個々の違いがあると思うが、結果から子ども一人一人の頑張りが見える。
	体力づくりの推進	1 体力テストの課題を重点的に取り組む。 2 食育を通して、バランスよく適量食べきる習慣を育む。	①個別の重点種目で全国平均を超えた児童の割合 ②苦手なものも体のために食べようとする児童の割合	①達成児童80% ②達成児童80%	①80% ②80%	①90% ②100%	100%	A	③個別の重点種目に焦点 ・体育授業での課題を意識した活動設定 ・朝の会・休憩時間の有効活用(習慣化) ⇒達成児童の増加◎ ④食育指導と給食指導の継続 ・バランスよく、適量食べきる意識の向上 ・安定した給食時間→食べる時間の確保 ⇒全員が毎日完食◎		2			
信頼される学校	郷土のよさと課題を知り、その発展のために、地域を支え得る人材を育てる学校	特色ある教育活動の推進(児童の英会話能力の向上)	1 英語教育の取組を充実させる。 2 学んだ英語を生かす場を設定する。 ①英語で話したり聞いたりすることが楽しいと感じている児童の割合 ②外国人と英語で交流する機会の実施回数	①児童の90% ②各学期1回以上	①93.3% ②100%	①91.1% ②100%	100%	A	①英語教育の取組の充実 ・授業で「習った表現を使って会話をする場」の確保 ・日常の中でALTと会話をする場を多く設定 ⇒英語で「話す」「聞く」ことを楽しむ児童増◎ ②外国の方との交流の機会を継続して設定 (1学期3回、2学期3回、3学期1回) ⇒目標回数を大きく上回る実施◎ ⇒話そうとする意欲↑◎	①取組の継続・充実 ・英語表現に慣れ親しむ取組の工夫を児童の実態に応じて見直し改善する。 ・ALTと細やかに連携し、児童とALTのコミュニケーションの充実を図る。 ②バランスの良い年間計画 ・時期や回数、内容について考慮した交流の機会を設定→来年度の計画を改善 ③系統性のある全体計画の作成 ・つきたい力と各学年の年間計画と系統性を効力した全体計画を作成し直す。 ④取組の継続・充実 ・今後も魅力ある活動、地域の協力を得た活動を実施する。	2			・適正に評価されている。 ・特色ある教育(英語教育)が子どもの生活にしみこんでいる。 ・子どもたちの成長が見られる。行事のたびに感動させられている。
	郷土学習の充実	1 「総合的な学習の時間」の内容の見直し・充実 2 地域の取組との連携	①地域の課題を知り、解決に向けての実行へ向かう単元の開発(改善) ②地域住民を巻き込んだ教育活動の数	①各学年1単元以上 ②各学期1回以上	①100% ②100%	①100% ②100%	100%	A	③単元の見直し・改善を全学年で実施⇒◎ ・生活科と総合的な学習の時間での単元を見直し、充実した内容に改善して実施中 ④全学年で学期1回以上実施⇒◎ (活動例)・地域の方との交流活動 ・授業や行事の講師 ・訪問・見学・調査活動		2			

【j:自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。